

令和7年度 石見まちづくりセンターの主な取組

事業名

石見地区の防災力パワーアップ事業

P

●事業実施に至った背景、目的

石見地区には19の自主防災会があるが、その活動内容には大きな格差がある。単独では訓練を実施出来ない組織が集まり、合同訓練を行うことで組織力の向上、防災に関わる人材の育成を目指す。可能であれば連絡協議会のような組織を立ち上げたい。

●事業を実施するまでの過程(関係機関との打合せ等)

- ・石見地区内の自主防災組織等で今年度の活動計画を話し合い、その後、訓練に向けた打合せ会議の実施（令和7年5月～8月 3回）
- ・防災安全課及び浜田市消防本部と打合せ（令和7年5月～12月 10回以上）
- ・参加の自主防災会及び訓練実施地区住民対象の事前勉強会と説明会を実施（11月 3回）
- ・地震災害想定避難所運営訓練及び避難訓練並びに防災体験学習の実施（12月13日）

D

●事業の概要

石見地区内の自主防災会等が合同で地震災害を想定した防災訓練を実施

目的は2つあり、一つは自主防災会等役員の避難所開設・運営のスキルアップ、一つは一般住民の防災意識の向上を目指すこと。

朝9時に浜田市で震度6強の地震が発生したとの想定で、自主防災会等役員は避難所を開設し避難者を受け入れる。一般住民は避難所へ避難し、避難所体験をする。その後、全員で①地震時のトイレの使い方、②日頃の備え、③応急手当と簡易担架、④消火訓練と震撼ブレイカーの4つのブースを体験し、最後に非常食を試食した。

C

●事業実施後の振り返り

- ・結局センター主導の訓練になってしまった。
- ・事前の勉強会は本番に向け非常に有効で、また、それだけでも防災学習になった。
- ・参加者は指示待ちが多く、主体的な動きが少なかった。
- ・訓練を運営することでセンター職員にも防災に対する意識が高まった。
- ・2つの目的を一度に行うには無理がある。
- ・防災意識の薄い地区で多くの参加があった。

A

●今後の方向性

- ・参加者の意見を尊重し事業を企画する。
- ・訓練部分とイベント部分を明確に分け実施する。
- ・其々の組織に作業部会で担当してもらう。
- ・組織強化及び人材発掘と育成を目的に事業を推進する。

